

## 女性研究者が子供をもつということ

Having Children as a Female Researcher

野崎京子\*・吉江尚子\*\*

**野崎** 今日は研究を続けながら子供をもつということについてお話ししましょう。うちは高校1年生と小学4年生の男の子二人です。吉江さんは？

**吉江** うちは小学2年生の男の子です。野崎さんとは学会の男女共同参画委員会や学内の会議などでよく一緒にいますが、こういう話題でゆっくりお話したことはなかったですね。

### 研究と子育て

**野崎** 先日、学会で会った博士課程の女子学生が、子供をもって研究者を続けることがイメージできないといっているのを聞いてとても残念に思いました。24時間研究に使える状況にいと、子育てに時間をとられることがイメージできないのでしょうかね。

**吉江** 実際に子供をもってみると、周囲の人の助けを借りて何とかできるのですけどね。「女性研究者は子供をもつと時間の使い方が上手になる」とおっしゃってくださる方もいます。

**野崎** 工夫できるようになるのですね。

### —産休・育休：制度は充実してきている—

**吉江** 育児休暇をとることは考えましたか？

**野崎** まったく考えませんでした。研究室に対しては、「ちょっと子供を生んでくるから待ってて」という感覚だったので(笑)。でも、育児休暇を育児だけでなく、少し離れて自分の研究を見直したり、学問的視野を広げる時間に当てたりできれば、研究者としてむしろプラスかもしれません。事実、私も新しいテーマを思いついたのは、子供が熱を出して家にいるときでした。

**吉江** そうそう。新しい発想って、実験台や机の前以外の場所に出てくることが多いですよ。

**野崎** 男性の育児休暇取得が増え、新しい発想でさらに日本が活性化していくといいですね。

**吉江** 最近では育児支援制度も充実してきています。常勤職

はもちろん、ポスドクについても、たとえば学術振興会のPDは育児休暇がとれますし、RPD<sup>†</sup>という制度もある。企業内や大学内保育所の整備も進んでいます。

**野崎** いろいろな制度があっても、利用する可能性のある人に見えていないと意味がない。冊子やHPにまとめて、妊娠した人や子供をもつか悩んでいる人に知らせることも大切だと思います。広報活動は皆で子育てを応援しているというメッセージを伝えることにもなります。

### あきらめずに

**吉江** 私たちはパーマネントポジションにあったから、直面しませんでした。任期付き職の場合は、一度休んでしまうとポストがなくなるという不安もありますね。

**野崎** 任期付き研究者(とくにポスドク)の雇用不安は男女を問わず問題になっています。でも、キャリア形成期がいわゆる出産適齢期と重なる女性のほうが、より深刻です。「2,3年は生産性が落ちて後でリカバーできる」なんて気安く言えないわけです。

**吉江** もっと長い目で見る制度が必要ですね。

**野崎** 制度ができるのを待ってられない、今現在問題に直面している人にもあきらめてほしくないですね。最近では、さまざまな条件の研究職の求人があります。出産・育児で一時キャリアを中断したとしても、何とかきっかけをつかんで、そこで、実績を積む。そこから糸を手繰り寄せていく。

**吉江** 実際、そうやってキャリアを積んでいった方もたくさんいらっしゃいます。

**野崎** 是非、そういった経験をこの欄で語ってもらいましょう。

注釈<sup>†</sup> RPD: 博士取得者が出産・育児による研究中断から研究活動を再開(Restart)するのを支援する制度。  
[http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd\\_gaiyo.html](http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd_gaiyo.html) 参照。

\*

東京大学大学院工学系研究科(113-8656 東京都文京区本郷7-3-1)・教授、工学博士。1991年 京都大学大学院工学研究科工業化学専攻博士課程修了。専門は有機金属化学、高分子合成。

\*\*

東京大学生産技術研究所(153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1)・准教授、博士(工学)。1990年 東京工業大学大学院理工学研究科高分子工学専攻修士課程修了。専門は環境高分子材料、高分子構造。